

楠葉西中学校 2年生 本日の予定

下の時間割を目安にして、『めあて』を達成できるように意識しながら、毎日課題に取り組みましょう。

時間\曜日		5/25 (月)	
1 限目	教科/ めあて	国語	物語文の表現に着目して内容を理解する
	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・「名作を読む②の5・6」プリントに取り組む。→答え合わせ ・「小ばなし④」プリントに取り組む。 ・時間がある人は「音読み・訓読み」プリント、「新出漢字8」プリントをする。 	
	注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・「名作を読む②」プリントは、物語の流れをとらえるためにも、一枚終わるごとに答え合わせを必ずすること。 なお、課題は国語の授業2時間分です。「名作を読む②」プリントについては、今日は「名作を読む②の5」プリント、次の日に「名作を読む②の6」プリントをするという形で取り組むことが理想的。 ・「新出漢字8」プリントは、週の宿題です。 	
2 限目	教科/ めあて	音楽	旋律の動きを意識し、イメージを表現できるように工夫して《夏の思い出》を歌おう
	内容	課題プリント1枚（記入して提出） ※音源の聴き方は5/13のプリントを参照してください。	
	注意事項	課題プリントに記入して提出してください。（印刷できない人は、解答だけ紙にかいて提出。）	
3 限目	教科/ めあて	理科	原子の記号を学ぼう&博物館や科学館を見よう
	内容	原子プリント1枚（記入するかノートに書いて提出）	
	注意事項	博物館や科学館については、登校日に話した通りです。色々なサイトがあるのでぜひ見てください。こちらは提出は不要です。	
4 限目	教科/ めあて		
	内容		
	注意事項		

十字になった町のかどを、まがろうとしましたら、向こうの橋へ行く方の雑貨店の前で、黒い影やぼんやり白いシャツが入り乱れて、六、七人の生徒らが、口笛を吹いたり笑ったりして、めいめい烏瓜(からすうり)の燈火(あかり)を持ってやって来るのを見ました。その笑い声も口笛も、みんな聞きおぼえのあるものでした。ジョバンニの同級の子供らだったのです。ジョバンニは思わずどきどきとして戻ろうとしましたが、思い直して、いっそう勢いよくそっちへ歩いて行きました。

「川へ行くの」ジョバンニが言おうとして、少しのどがつかまったように思ったとき、

「ジョバンニ、ラッコの上着が来るよ」キッキのザネリがまた叫びました。

「ジョバンニ、ラッコの上着が来るよ」すぐみんなが、続いて叫びました。ジョバンニは真っ赤になって、もう歩いていくかもわからず、急いで行きすぎようと思いましたら、そのなかにカムパネルラがいたのです。カムパネルラはきのどくそうに、だまって少しわらって、おこらないだろうかというようにジョバンニの方を見ていました。

ジョバンニは、にげるようにその眼を避け、そしてカムパネルラのせいの高いかたちが過ぎて行ってまもなく、みんなはてんでに口笛を吹きました。町かどを曲がるとき、ふりかえて見ましたら、ザネリがやはりふりかえて見ていました。そしてカムパネルラもまた、高く口笛を吹いて向こうにぼんやり見える橋の方へ歩いて行ってしまったのでした。ジョバンニは、なんとも言えずさびしくなって、いきなり走りだしました。すると耳に手をあてて、わあわあと言いながら片足でびよんびよん跳んでいた小さな子供らは、ジョバンニがおもしろくてかけるのだと思つて、わあいと叫びました。

まもなくジョバンニは走りだして黒い丘の方へ急ぎました。

五 天気輪の柱

牧場のうしろはゆるい丘になって、その黒い平らな頂上は、北の大熊星の下に、ぼんやりふたんよりも低く、連なつて見えました。

ジョバンニは、もう露の降りかかった小さな林のこみちを、とどんどのぼつて行きました。まっくらな草や、いろいろな形に見えるやぶのしげみの間を、その小さなみちが、一すじ白く星あかりに照らされたであつたのです。草の中には、びかびか青びかりを出す小さな虫もいて、ある葉は青くすかし出され、ジョバンニは、さつきみんなの持つて行った烏瓜(からすうり)のあかりのようだとも思いました。

そのまっ黒な、松や檜の林を越えると、にわかにならんと空がひらけて、天の川がしらしらと南から北へわたっているのが見え、また頂の、天気輪の柱も見わけられたのでした。つりがねそうか野ぎくかの花が、そこらいちめんに、夢の中からでもかおりだしたというように咲き、鳥が一足、丘の上を鳴き続けながら通つて行きました。

ジョバンニは、頂の*天気輪の柱の下に来て、どこどかするからだを、つめたい草に投げました。

町の灯(あかり)は、やみの中をまるで海の底のお宮のけしきのようにともし、子供らの歌う声や口笛、きれぎれの叫び声もかすかに聞こえて来るのでした。風が遠くで鳴り、丘の草もしずかにそよぎ、ジョバンニの汗でぬれたシャツもつめたく冷やされました。

野原から汽車の音が聞こえてきました。その小さな列車の窓は、一列小さく赤く見え、その中にはたくさん旅人が、りんごをむいたり、わらったり、いろいろなふうにしてると考えますと、ジョバンニは、もうなんとも言えずかなしくなつて、また眼をそらに挙げました。

名作を読む②の5続き

() (組) (番号前)

ところがいくら見ても、そのそらは、ひる先生の言ったような、がらんとした冷たいとこだとは思われ
ませんでした。それどころでなく、見れば見るほど、そこは小さな林や牧場やある野原のように考えら
れてしかたなかったのです。そしてジヨバンニは青い琴の星が、三つにも四つにもなって、ちらちらまたき、
脚が何べんも出たり引つ込んだりして、とうとうきのこのように長く延びるのを見ました。またすぐ眼の
下のまちまでが、やっぱりぼんやりしたたくさんの星の集まりか一つの大きなけむりかのように見えるよう
に思いました。

*天気輪(てんきりん)…作者が自分で作った言葉。

*お宮…神社など、日本固有の宗教である神道の信仰に基づく祭祀施設。

①「烏瓜のあかり」の色は何色ですか。

②赤色ではなく①の色で表現することでのどのような違いが表されますか。

③「町の灯」は何にたとえられていますか。十字でぬきだしなさい。

④本文を読み、考えたことや感じたことを自由に書きなさい。

六 銀河ステーション

そしてジヨバンニはすぐうしろの天気輪の柱がつかぼんやりした三角標の形になって、しばらく螢のように、べかべか消えたりともったりしているのを見ました。それはだんだんはつきりして、とうとうりんとうごかないようになり、濃い鋼青(はがね)のそらの野原にたちました。いま新しくやいたばかりの青い鋼(はがね)の板のような、そらの野原に、まっすぐにすきと立ったのです。

するとどこかで、ふしぎな声が、銀河ステーション、銀河ステーションと言う声が出たと思つくと、いきなり眼の前が、ぱつと明るくなって、まるで億万の螢鳥賊(ほたるい)の火を一べんに化石させて、そらじゅうに沈めたというぐあい、またダイアモンド会社で、ねだんがやすくならないために、わざと穫れないふりをして、かくしておいた金剛石を、誰かがいきなりひっくりかえして、ばらまいたというふうに、眼の前がさあつと明るくなって、ジヨバンニは、思わず何べんも眼をこすってしまいました。

気がついてみると、さつきから、ここどこどこと、ジヨバンニの乗っている小さな列車が走りつづけていたのでした。ほんとうにジヨバンニは、夜の軽便鉄道の、小さな黄いろの電灯のならんだ車室に、窓から外を見ながらすわっていたのです。車室の中は、青い天鵞絨(びるーど)を張った腰掛けが、まるでがらあきで、向こうの鼠(ねずみ)いろのワニスを塗った壁には、真鍮(しんちゅう)の大きなぼたんが二つ光っているのです。

すぐ前の席に、ぬれたようにまっ黒な上着を着た、せいの高い子供が、窓から頭を出して外を見ているのに気がつきました。そしてそのこともの肩のあたりが、どうも見たことのあるような気がして、そう思うと、もうどうしても誰だかわかりたくて、たまらなくなりました。いきなりこっちも窓から顔を出そうとしたとき、にわかにその子供が頭を引っ込めて、こっちを見ました。

それはカムパネルラだったので、ジヨバンニが、

カムパネルラ、きみは前からここにいたの、と言おうと思ったとき、カムパネルラが、

「みんなはね、ずいぶん走ったけれども遅れてしまったよ。ザネリもね、ずいぶん走ったけれども追いつかなかつた」と言いました。

ジヨバンニは、

(そうだ、ぼくたちはいま、いっしょにさそって出かけたのだ)とおもいながら、

「どこかで待っていいようか」と言いました。するとカムパネルラは、

「ザネリはもう帰ったよ。お父さんが迎いにきたんだ」

カムパネルラは、なぜかそう言いながら、少し顔いろが青ざめて、どこか苦しいというふうでした。するとジヨバンニも、なんだかどこかに、何か忘れたものがあるというふうな、おかしい気持ちが出てしまっていました。

ところがカムパネルラは、窓から外をのぞきながら、もうすっかり元気が直って、勢いよく言いました。

「ああしまった。ぼく、水筒を忘れてきた。スケッチ帳も忘れてきた。けれどかまわない。もうじき白鳥の停車場だから。ぼく、白鳥を見るなら、ほんとうにすきだ。川の遠くを飛んでいって、ぼくはきくと見える」そして、カムパネルラは、まるい板のようになった地図を、しきりにぐるぐるまわして見ていました。まったく、その中に、白くあらわされた天の川の左の岸に沿って一条の鉄道線路が、南へ南へとたどって行くのです。そしてその地図の立派なことは、夜のようにまっ黒な盤の上に、一々の停車場や三角標、泉水や森が、青や橙(だいだい)や緑や、うつくしい光でちりばめられてありました。

ジヨバンニはなんだかその地図をどこかで見たようにおもいました。

名作を読む②の6続き

() (組) (番号前)

「この地図はどこで買ったの。黒曜石(こくようせき)でできてるねえ」
ジヨバンニが言いました。

「銀河ステーションで、もらったんだ。君もらわなかったの」

「ああ、ぼく銀河ステーションを通ったろうか。いまぼくたちのいるところ、ここだろう」

ジヨバンニは、白鳥と書いてある駐車場のしるしの、すぐ北を指しました。

「そうだ。おや、あの河原は月夜だろうか」そっちを見ますと、青白く光る銀河の岸に、銀いろの空のすすきが、もうまるでいちめん、風にさらさらさらさら、ゆられてうごいて、波を立てているのでした。

「月夜でないよ。銀河だから光るんだよ」ジヨバンニは言いながら、まるでね上がりたいくらい愉快になつて、足をこつこつ鳴らし、窓から顔を出して、高く高く星めぐりの口笛を吹きながら一生けん命延びあがつて、その天の川の水を見きわめようとしたが、はじめはどうしてもそれが、はつきりしませんでした。けれどもだんだん気をつけて見ると、そのきれいな水は、ガラスよりも水素よりもすきとおって、ときどき眼のかげんか、ちらちら紫いろのこまかな波をたてたり、虹のようにぎらっと光ったりしながら、声もなくどんとん流れて行き、野原にはあっちにもこっちにも、燐光(りんこう)の三角標が、うつくしく立っていたのです。遠いものは小さく、近いものは大きく、遠いものは橙(だいだい)や黄いろではつきりし、近いものは青白く少しかすんで、あるいは三角形、あるいは四辺形、あるいはいなすまや鎖の形、さまざまにならんで、野原いっぱい光っているのです。ジヨバンニは、まるでどきどきして、頭をやけに振りまわした。するとほんとうに、そのきれいな野原じゅうの青や橙や、いろいろかがやく三角標も、てんでに息をつくように、ちらちらゆれたりふるえたりしました。

*三角標(さんかくひょう)：作者が自分でつくった言葉。

*黒曜石：外見は黒く(茶色)、また半透明の場合もある(ガラスとよく似た性質を持つ石)。

*燐光：黄燐(黄色のリン)が空気中で酸化して発する青白い光。また、生物物質が腐敗・酸化するとき生じる光。

①ジヨバンニは別世界にきたようですが、それはどの段落からだと考えられますか。形式段落の番号でこたえなさい。

②別世界で最初にあったときのカンパネラの様子を本文中から十七字でぬき出しなさい。

③「その地図をどこかで見たように思いました」とありますが、これまでの物語の中でそれらしいものが登場しています。思い出して答えなさい。

④この場面でのジヨバンニはどのような気持ちですか。これまでの物語の流れも思い出しながら、本文の内容をもとに考えて書きなさい。

【名作を読む②の5模範解答】

①「烏瓜のあかり」の色は何色ですか。
(青色)

②赤色ではなく①の色で表現することでのどのような違いが表されますか。
(赤色だと温かさなど熱を持って燃えているような印象で、青色だと温かさや勢いは弱まり、静かに燃えている印象の違い。)

③「町の灯」は何にたとえられていますか。十字でぬきだしなさい。
(海の底のお宮のけしき)

【名作を読む②の6模範解答】

①ジヨバンニは別世界に来たようですが、それはどの段落からだと考えられますか。形式段落の番号でこたえなさい。

(第三段落)

②別世界で最初にあったときのカンパネルラの様子を本文中から十七字でぬき出しなさい。
(少し顔いろが青ざめて、どこか苦しい)

③「その地図をどこかで見たように思いました」とありますが、これまでの物語の中でそれらしいものが登場しています。思い出して答えなさい。

(時計屋に飾ってあった星座の図)

④この場面でのジヨバンニはどのような気持ちですか。本文の内容をもとに考えて書きなさい。

(例)少し不思議な気もするが、カムパネルラもいて、興味のあった銀河の世界に来られたようであれしくはしゃいだ気持ち。

[小ばなしシリーズ] 小ばなし4

年 組 氏名

学習するみなさんへ：

「どこがどんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」をわかりやすく説明することができましたか。いろんな文章を書くときには、「相手にわかりやすく」をいつも心がけるようにしましょう。原稿用紙に書いた自分の文章を友だちと読みあって、書き方を比べあったりするのでもよい学習になります。

また、聞いている人が小ばなしのおもしろさを感じるような読み方を工夫することは、相手にわかりやすく話すことにつながりますよ。

面白さを説明するときのポイント

この小ばなしが「どんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」を説明しようとするときには、次のことがらがポイントになります。あなたが書いた文章にこれらのポイントが入っているかどうか確かめましょう。

ポイント

● うなぎ屋からのおいをかいで、それをおかずにご飯を食べていた男が、うなぎ屋の主人から「おいのかぎ賃」を請求されたが、とんちをきかせて、「におい」に対して「音」で支払うところ
 いて、うなぎ屋の主人を逆にやり込めるところ

読み方のポイント

- 登場人物によって声を変える工夫をする。
 - 二人とも男なので、声色や話し方に違いが出るようにする。
 - 会話の部分はリズムよく、実際に会話しているように話す。
 - 会話の内容によって調子を変える。
- 子 初めの男のセリフは本当に身に覚えがないという様子を出して読む。
- 主人のセリフはもっともらしく当然だという風で読む。

〔小ばなしシリーズ〕 小ばなし4

このシリーズでは、江戸時代の笑話(小ばなし)を紹介します。江戸時代の笑話には、当時の世の中の様子や人々の生活、人情を題材にしたものが多く、笑えるだけでなく、当時のいろいろなことを知ることができます。

学習の目的は二つです。

ひとつは、この話を読んで、「どこがどんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」を文章で書くことです。どうしておもしろいのか、笑えるのかということを説明することは『書く力』を伸ばすことにつながります。

もう一つは、声に出して読むことです。落語家になったつもりで、声に出して読んでみましょう。そして読むときは登場人物になりきって、もしあなたのその話を聞いている人がいたら、その人を笑わすつもりで読んでみましょう。

小ばなしを楽しみながら、書く力と読む力の両方を身に付けましょう。

<課題>

次の小ばなしを読んで、

①原稿用紙に「どこがどんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」を説明する文章を書きましょう。

②読み方を工夫して、その話を聞いている人がいたら、その人が小ばなしのおもしろさに笑ってしまうような読み方を練習しましょう。



うなぎの蒲焼き

ある男が、うなぎ屋の前でおいをかいできては、それをおかずにしてご飯を食べていました。

数日後、うなぎ屋の主人が男の家へ請求書を持ってやってきました。

男が、

「オレは、おまえさんに金を借りたおぼえはないが……」

というと、うなぎ屋の主人は、

「これは蒲焼きのかぎ賃だ。おまえさんはうちの蒲焼きのにおいをかいではご飯を食べているようだから、こつちも食べさせた気になって、金を取りにきた」

すると男は、お金を板の間に放り投げて、

「音だけ聞いて帰ってくれ。お金を受け取った気になつたらう」

年 組 氏名

〈課題1〉	「どこがどんなふうにおもしろいのか。」「なぜ笑えるのか」を説明しなさい。

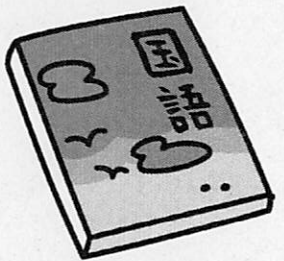
〈課題2〉	読み方の工夫とあるが、どんな読み方をすればよいかを答えなさい。

〈課題3〉	〈課題2〉で考えた読み方で、読む練習を3分間しなさい。練習後、下の選択肢のどちらかに○をしなさい。
	上手く読めた ・ 大体読めた ・ 難しかった

〈答え〉を確認し、答え合わせをしよう。

自由課題	実際に家族など自分以外の人にこの話を聞いてもらい、小話を披ろうした感想を書きなさい。

音読み・訓読みの見分け方



音読み・・・発音を聞いて意味がわからないもの

訓読み・・・発音を聞いて意味がわかるもの



読書 || 音読み + 音読み 仕事 || 音読み + 訓読み
 強気 || 訓読み + 音読み 着物 || 訓読み + 訓読み

注

間違えやすい例

発音を聞いても意味が分かるが実は音読み

(例) 絵(エ) 肉(ニク) 駅(エキ) 服(フク)
 図(ズ) 席(セキ) 線(セン) 客(キヤク)

発音を聞いても意味が分からないが実は訓読み

(例) 場(バ) 日(ヒ) 間(マ) 野(ノ) 身(ミ)

練習一

次の漢字の読みにおいて、音読みと訓読みのどちらかを選び、選んだほうに○をなさい。

(5)	(4)	(3)	(2)	(1)	問
海	新	時	恋	山	漢字
うみ	しん	じ	こい	やま	読み
音・訓	音・訓	音・訓	音・訓	音・訓	音 or 訓

(10)	(9)	(8)	(7)	(6)	問
身	席	線	場	絵	漢字
み	せき	せん	ば	え	読み
音・訓	音・訓	音・訓	音・訓	音・訓	音 or 訓

練習二

次の熟語の読みにおいて、音読みと訓読みの組み合わせをア～エから選び、その記号を書きなさい。

- ア 音読み + 音読み イ 音読み + 訓読み
 ウ 訓読み + 音読み エ 訓読み + 訓読み

- (1) 筋道 () (2) 起源 () (3) 仕事 ()
 (4) 裏門 () (5) 石段 () (6) 巻物 ()
 (7) 密集 () (8) 鼻血 () (9) 油絵 ()
 (10) 針金 () (11) 郷土 () (12) 蒸発 ()

練習一

次の漢字の読みにおいて、音読みと訓読みのどちらかを選び、選んだほうに○をなさい。

解答

(5)	(4)	(3)	(2)	(1)	問
海	新	時	恋	山	漢字
うみ	しん	じ	こい	やま	読み
音 訓	音 訓	音 訓	音 訓	音 訓	音 or 訓

(10)	(9)	(8)	(7)	(6)	問
身	席	線	場	絵	漢字
み	せき	せん	ば	え	読み
音 訓	音 訓	音 訓	音 訓	音 訓	音 or 訓

練習二

次の熟語の読みにおいて、音読みと訓読みの組み合わせをア～エから選び、その記号を書きなさい。

ア 音読み + 音読み イ 音読み + 訓読み

ウ 訓読み + 音読み エ 訓読み + 訓読み

- (1) 筋道 (エ)
- (2) 起源 (ア)
- (3) 仕事 (イ)
- (4) 裏門 (ウ)
- (5) 石段 (ウ)
- (6) 巻物 (エ)
- (7) 密集 (ア)
- (8) 鼻血 (エ)
- (9) 油絵 (ウ)
- (10) 針金 (エ)
- (11) 郷土 (ア)
- (12) 蒸発 (ア)

国語・新出漢字 ハ「漢字を身につけよう2」 () (組) () (番 名前) ()

新出漢字												音読み	用例	読み方	練習	その他の用例					
訓読み																					
痢	隆	浸	沃	盲	叫																
疫痢	下痢	隆盛	隆起	浸す	浸水	沃野	肥沃	盲信	盲点	叫び声	絶叫										
えきり						よくや															

捕 呈 贈 填 鑄 枢

捕らえる 逮捕 呈する 露呈 贈り物 贈呈 充填 補填 鑄物 鑄造 枢軸 中枢

ちゅうぞう

自主学習欄(さらに漢字練習をしたり、わからない語句の意味調べをしたり、短文を作ったり、自由に)

2年生音楽科 5月25日 課題プリント

※このプリントに記入して提出してください。印刷できない人は、解答だけ紙に書いて提出しましょう。

目標：旋律の動きを意識し、イメージを表現できるように

工夫して《夏の思い出》を歌おう♪

提出：プリント1枚

※前回と同様に、教育芸術社の Web ページで音源を聴きながら取り組んでください。

1. 前回の学習を振り返り、旋律の動きを意識しながら《夏の思い出》を歌いましょう。できれば [カラピアノ] で、不安な人は [歌唱] の音源に合わせて歌いましょう。
2. あなたがこだわって歌いたい部分について、感じ（雰囲気・イメージ）を表現できるように歌い方を工夫してみましょう。実際に歌いながら考えること。楽譜中の記号（強弱記号、テヌート、フェルマータなど）にも注目してください。※記号の意味が分からない場合は、教科書 p.79 で確認すること。
3. 表現したい感じ（雰囲気・イメージ）と関わらせて、工夫したことを具体的に書きましょう。

(例：“水芭蕉の花が”は、一面に花が咲いている美しさに感動している感じを表現するために、息をたっぷり使って強めに歌う。“咲いている”は、可憐で上品な感じを表現するために弱めに歌うが、言葉をハッキリ発音する。)

8. 表現したい感じが出るように、工夫したことを活かして歌いましょう。[カラピアノ] の音源に合わせて、1番を通して歌うこと。最後に振り返りを書きましょう。

振り返り

2年 組 番 ()

